様式２

４－３	主題	集団リハビリを通して園内社会参加を目指す。
集団リハビリ 音楽	副題	合唱隊を結成し、歌うことを、生きる喜びに！
研究期間　６ヶ月	事業所	一誠会　偕楽園

発表者：廣田　貴弘　ひろた　たかひろ	アドバイザー：
共同研究者：三田　篤史　原　弘樹	

電　話	042-691-2830	メール	home@kairakuen2830.sakura.ne.jp
ＦＡＸ	042-691-2830	ＵＲＬ	http://www.kairakuen2830.sakur

今回発表の事業所やサービスの紹介	偕楽園ホームは、昭和 55 年以来自然に囲まれたこの八王子郊外の山里で「福祉の心」を育んできました。この４月に併設で「デイサービスセンター初音の杜」と「グループホーム初音の杜」を開設し、地域に一層根づくことを目指してます。二人配置の機能訓練指導員と連携し、ケアワーカー主体のフロアでの訓練も盛んです。運動療法のほか回想法、貼り絵等多様なメニューで行ってますが、今回は今春から始めた合唱隊を紹介します。

《研究前の状況と課題》

状況

平成 18 年より集団リハビリの一環でハンドベルを行ってきたが、参加メンバーで音楽への意識やレベルの違い、そのことによる利用者間の不協和音が顕在化してきたこと、担当職員側にもハンドベル合奏を盛り上げる技量と感性とパワーが十分でなかったことから、ハンドベル合奏のレベル向上は当初の期待に応えられなかった。また利用者間の不協和音も十分に調整できず、一部の利用者様が集団リハビリに参加されなくなってしまったのは大きな反省であった。

課題

職員は訓練で行うことに利用者から信頼される一定の技量とパワーがあること、そして担当する職員側も統一あるチームであること、そして多くの利用者が楽しんで参加できる新たな集団リハビリプログラムの作成が必要になった。

《研究の目標と期待する成果》

目標

違うフロアや普段交流の無い利用者様が集まり、一つの目標に向かうことで、グループの働きにもよる「生活の質」の向上に向けて、支援を行っていく。

声を出して歌うことは、例えば楽器演奏などと違い誰もができる自然な楽しみである。合唱隊を通して、例えば普段ベット上で過ごしていることが長い利用者様や認知症で意欲が低下している利用者様に対しても、このように広く参加出来るプログラムを通して集団活動に参加する機会とし、ひいては園内・園外との関わりを広げていくことで、社会参加を目指していく。

※無断転載・複製を禁じます

《具体的な取り組みの内容》

・多くの利用者様が参加出来るようプログラムは合唱とする。

・「高齢者を対象とした音楽療法の実施に関する一考察～プログラム例の分析を通して～」を参照に曲の準備を行う。

最初は参加メンバーは１０名程度にし、場所を訓練室に設定した。毎週土曜に練習し、第三土曜の月一回クラブとして本格練習を行った。

・流れに統一感を作る為、①ホワイトボードを使用し、季節や日時の確認②その日の歴史的事実からアプローチを行った回想法③民謡体操を歌う前に実施した。

・音楽に精通しているワーカーを講師に立て、歌を歌うだけでなくボディーアクションや、鈴やタンバリンなどリズムの楽器を使用して体を使った練習を行った。

・曲の選定はクラブ内で時間を作り、その季節にあった曲の選択を参加メンバー全員で考え、選んだ。

・施設懇談会の時間に、選考メンバーによる合唱の発表を行った。

《取り組みの結果と評価》

・音楽に精通した利用者様を部長として設定したが、他のメンバーより「一人で何でも決めてしまう。」「歌い方を指示されて、気持ちよく歌えない。」など意見が出て、部長制度を中止した。

・クラブ化を行ったことにより、一貫性のある支援体制が出来た。

・タンバリンや鈴を使った練習をすることで、そこに楽しさが生まれたのか、普段行動に対して受け身の利用者様も自発的に音を奏でるようになった。

◎利用者様の変化

K 様　定時交換者で、日中もベット上で過ごされることが多いが、土曜日になると「今日合唱の練習だよね、何時からですか？」と自発的に聞かれる様になった。

Ｙ様　人との交流を殆ど行わないＹ様でしたが、回数を重ねる事により、合唱後「今日、歌の練習をしてきたよ。楽しかった。」と参加した事に対しての感想を言われるようになった。

《まとめ》今現在、音楽に精通している職員が関わることで、「参加したくなる合唱隊」を維持しているが、今後長期的に見て、職員一人一人のスキルの底上げを行ない、ホーム全体のレクレベルを上げていく。

《参考文献》

～高齢者を対象とした音楽療法の実施に関する一考察～　山本敦子

《提案と発信》

本ホームでは個別・生活･集団を機能訓練の柱にしてますが、ご紹介の合唱隊は集団訓練のひとつです。共に歌う楽しみ、歌による生活の回想、ボディーアクションによる活性化及びハレの場での発表の喜びを最大限に発揮していきます。合唱隊では音楽療法も学んだセミプロ級シンガーの介護職員が笑いを伴った迫力とノリで力を発揮してます。ホームの看板のひとつになることを楽しみにしてます。

【メモ欄】

※無断転載・複製を禁じます